

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800396		
法人名	有限会社グループホーム 高野の里		
事業所名	グループホーム 高野の里	ユニット名	
所在地	長崎県松浦市志佐町高野免631番地4		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年12月25日	評価確定日	平成29年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で利用者様に「ゆっくり、楽しく、安心した」時間を過ごして頂けるよう、日々努力しています</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホーム高野の里”では穏やかな時間が流れている。皆さんと一緒に楽しく過ごせるように心がけており、日光浴を兼ねて、外のウッドデッキで過ごす時間も作られている。ホームの前には田畑が広がり、遠くの山を眺めることもできる。ホーム周辺の散歩を楽しまれ、近隣の方の庭に咲く藤の花等を見学させて頂いている。車いす対応の車を購入し、不老山公園の花見に出かけたり、市内のドライブを楽しまれている。入居後、次第に明るくなる入居者の姿に、施設長も職員の頑張りを評価している。心身状況が維持されている方も多く、職員全員の頑張りの成果が見られている。今後も職員間の信頼関係を構築し、チームワークの強化に努めていく予定である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	言葉遣い、態度は日々生活の中で理念に基づいた介護を行うように努めている、職員会議、ケア会議、介護現場においても職員間で話し合いながらさらに実践につなげていきたい。	“ご利用者の人権を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、皆様と一緒に「ゆっくり、楽しく、安心して」等の理念を大切にされている。ご利用者の方々は、お話をしながら洗濯物を畳まれたり、笑顔で団欒されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入後は回覧板を回す事で隣家に行く回数が増え、日常会話の中で施設内の情報を伝える事も多くなり、夏祭り開催も区の回覧板を利用させていただき案内しています。	施設長と管理者を中心に地域交流を続けている。「一人暮らしの集い」に参加されたり、敬老の日は区長や婦人部の方がお祝いを届けて下さっている。商店街での買い物や散歩の時などに地域の方と会話をしており、不定期ではあるが「小さな夏祭り」も開催している。	今後も引き続き、ホーム行事に地域の方々に参加して頂くと共に、小学生の体験学習の受け入れや幼稚園児などの子ども達との交流を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商店街での買い物、定期受診で地区の病院に行った時や、散歩の途中で声をかけていただいたりしながら、普段の生活の中で関わりのある方等を発信していけたらと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一に職員全員が集まる事が出来ず報告や意見などは行っていないことです。より一層のサービス向上に役立てたいと、頑張っています。	地域の方も仕事をしている方が多く、高齢化もあり、会議に参加して頂くための検討を行っている。市の担当者から指導を受け、2か月に1度の会議が行えるように努めており、ホームの取り組みを報告すると共に、地域の情報交換を続けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方からの連絡、指導などがある、積極的に取り組みたい、又居宅事業所研修会へも参加して情報の収集に努めている。	市の担当者に運営推進会議の議事録を届けている。管理者とケアマネが各種手続きに関する書類の書き方などを相談しており、市の担当者も丁寧に説明して下さっている。日々の運営で困難な状況になった時も適宜相談し、アドバイスを頂いている。メール等で研修等の情報も頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯の為に施錠しているが、基本的に玄関等の施錠はしていない、身体拘束をしないケアに取り組んで継続している。	身体拘束の無いケアを続けている。穏やかに過ごされている方が多く、日々の役割を担って頂いたり、ご本人のストレスの原因を把握し、関わり方の検討を続けている。職員と一緒にホーム周辺を散歩し、気分転換に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り及び職員同士などで話し合いをしている中で虐待があってはならない事として防止の徹底に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報の回覧板、パンフレット等での学ぶ機会があるが具体的な取り組みはまだ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前少なくとも、1度はご本人と会い、ご家族の方とは必要に応じてお会いし、ご本人、ご家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得が得られるよう十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口の見やすい所に意見、苦情受付箱を設置している入所契約時、面会時にも意見があればと説明し声掛けをしている。今後は運営推進会議等の中でご家族の意見なども頂けるようにしていきたいです。	ケアマネが家族との情報交換を続けており、思いや要望を把握するように努めている。家族からも「要望等をよく聴いてくれる」「暮らしぶりの報告もある」とアンケートに書いて下さっている。今後も家族との面談結果も担当者会議の記録に残していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを今年度は余りしていないので1月よりはしていきたいと思います。	管理者やケアマネなどが職員の個人的な相談に応じている。施設長も経営状態に苦慮しながらも、常に職員の事を考えており、職員の頑張りを評価し、頑張りに応じた昇給も行われている。今後もご利用者の方に安心して生活して頂く為の話し合いを続けていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力は施設長も理解をしているようです。11月分よりいくらか給与が上がりました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員に関しては出来るだけは外部の研修会に参加出来るようにしていきたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ会主催の研修会に参加したりして色々な施設との交流が出来るように働き掛けてもらうようにしていきたいです。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い共に行動する事、出来るだけ話をする機会を設け良く話を聞く事、その中で困っている事、不安な事を聞きだせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時等、話し合える時間を持ち、ご本人の状況を伝えたり、意見、要望等を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視してサービスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人の方は他の利用者がテレビを見ていとおしゃべりをされ聞こえないとイライラされる事がある。その都度対応するが落ち着きがなく今度はウロウロされるのでまたイライラとされ自分の部屋へ行かれるそれがなければ良いと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、敬老会、クリスマス会、誕生会等に家族も参加して頂く家族と共に過ごしていただく時間を大切に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば付き添って地域の神社に初詣に出かけているが今年はインフルエンザが流行っている事もあり予防のために中止した。	生活歴、仕事、趣味等を把握している。クリスマス会に友人が来て下さったり、友人の送迎で自宅に行かれる方もおられる。お墓参りにもお連れしているが、お墓までの道のりが困難で、職員がお墓を掃除し、お花を供える事ができた。職員の送迎で散髪屋にも行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2名方は居室にテレビをおいてます1名は部屋でゆっくりしたいともう1人はウロウロされる方がいる為部屋に入ってテレビを見られるそれ以外は娛樂室にてレクリエーションに参加される。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに行き関係者から病状、経過の情報を得るようにしている、また家族の負担が少しでも軽くなるようにと、洗濯物の支援等に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの思い、希望、意向を尋ねても答えられることは少ない。会話とか日々の生活を通じて、ご本人本位の希望、意向の把握に努めている。	自分の意見を表出する事が困難な方もおられ、面会時や電話の時に、家族から「入院をしないように」「元気で暮らしてほしい」等の要望を伺っている。ご利用者からも要望を伺っており、「買い物に行きたい」等の外出の要望や、食事の好み等を伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、医療機関者、福祉関係者等から情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事、排泄、睡眠状態、精神面の観察、記録、申し送り等において把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご本人、ご家族の希望、要望を聞き情報収集をしている。毎月の会議の中で話し合いながら現状に即した介護計画を作成出来るよう努めていきます。	ご本人や家族の要望を丁寧に把握し、ケアマネが計画の原案を作成している。日々のケア内容に基づき、モニタリング(評価)を続けており、体調変化や家族状況の変化に伴い、再アセスメントを行い、適宜、計画の変更を行っている。	今後は更に日々の記録の在り方を見直していきたいと考えている。生活歴の把握もできており、アセスメントに追記すると共に、各活動の要望や「できそうなこと」等も追記していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護日誌、ヒヤリハット、申し送り等での状況を伝えている。今はモニタリングがない状況です1月よりはしていきたいと思えます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助を行い、入院された場合は見舞い、入院先の医師、看護師等からの情報収集等に努め、サービスの多様化に努めている。家族から希望があれば、特養等他の施設への入所申請も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今の所地域の行事、地区内の子供、婦人が催す会には出席が難しいです。なるべく声掛けはしているが利用者は行きたくないと言われているので行けない状態です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関に受診している、検査結果についても速やかに報告しなければならないことは電話で報告、場合によってはDrから直接、病状、検査結果を説明してもらえるように働きかけている。	通院介助は職員が行い、日々の体調や心身状況を主治医に報告している。認知症専門医が少ない地域でもあり、症状によっては精神科に相談している。受診状況や生活記録、食事量、バイタル、排泄状況などを「経過表」に記録し、面会時に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々介護現場の中で、朝、夕引継ぎ、申し送りの場をどうして速やかに情報を伝え、看護者から病院看護師、Drに相談、指示を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけお見舞いに行き馴染みの関係を欠かさないように努め、場合によっては洗濯物を持ち帰っている、必要時は主治医から病状、経過の説明を受けたり、入退院時は病院看護師と服薬、身体状況等の情報交換を行い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のいない方が1名います、その方は福祉関係者の方が身元保証人になっている為に夜間の連絡が取れない為に朝に連絡をするようになっています、その他の方は連絡が取れる	急変時の対応方法を家族と検討している。往診や訪問看護事業所が近隣に無く、終末期は協力医療機関で対応して頂く事を説明している。特養の申込みの相談も受けており、ホームの看護職員と職員、主治医と連携し、ホームでできる事を精一杯させて頂いている。重度化予防のためにリハビリ等も続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者の正常な状態を把握し異常の早期発見が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	施設の立地条件に限界があるが火災に対しては訓練を通して確認しあっている。	市役所から防災無線で大雨注意警報等の情報が入る。年2回の昼間想定訓練では、消防機器会社の方が参加して下さり、訓練内容は消防署に報告している。夕方、ガスの元栓を閉め、夜中は火を使用しない等、火事を出さないように努めている。災害に備え、水や食料品、応急セット(ガーゼ・包帯・カットパン・シップ等)、携帯ラジオ、懐中電灯、保温マット、排泄セット(紙パンツ・尿取など)等を準備している。	松浦地区全体が山崩れによる地すべり等の危険地区であり、行政による補強工事も行われた。原発事故が起きた際は、大瀬戸に避難するルールになっている。今後も施設長が中心になり、地域の協力体制を含め、自然災害時の避難計画を作成予定であり、消防署との訓練や夜間想定訓練を検討していく予定である。

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		時には名前で呼ぶこともあるが、尊厳と親しみを持って接している、誘導時の声掛け、特に排泄介助は扉の外で待機し自尊心、恥心に配慮した援助をするよう努めており継続していきたい。	優しく、丁寧に、思いやりの言葉を心がけている。排泄や入浴時の羞恥心の配慮を行い、同性介助も行われている。介助を拒まれる時には理由を分析するように努め、個別の対応を続けている。守秘義務に関しても重要事項に記載し、ご利用者から見えない場所に各種書類を保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		年々重症化しており自分の意見を表出する事が困難になっている。毎日の生活の中で会話の機会を持ち、何気ない会話の中からも拾い出すように、質問しやすいような投げかけでご本人の思い、希望を聞き出すように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		ご本人のベースに添った、希望に添った支援が出来るように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		衣類等についても色、デザイン、ご本人の希望を第一にと考え、着替えについても選択出来るよう風呂日には着替えの服を準備していただいている、髪カットも希望の長さ等を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		今は職員控室で食事をしているが早出が11時より食事をして後の職員は12時よりします。調理される方は12時30分よりされます利用者の方の食事をちゃんとされているかムセがないかなどを見守りしています。	3食手作りしている。ご本人が一番食べたいメニューを聴き、日替わりの献立に盛り込まれている。栄養バランスにも配慮し、馴染みの“お寿司やだんご”等も作られている。ご利用者もテーブル拭きやお盆拭き等を手伝って下さっている。	以前に比べ、料理の下ごしらえ等をして頂く機会が減っている。今後は更にアセスメントの段階で「できる能力(役割)・できそうな能力(役割)」を把握し、介護計画に盛り込むと共に、実践状況のチェックをしていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		毎日、食事摂取量のチェック、飲水量の確認を行い栄養管理に気を付けている、お1人お1人の摂取機能に応じた工夫を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後のうがいが出来ない事がある。動ける方は洗面台にいかれてうがいをされます。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることで本人の排泄パターンを把握、定期的な声掛けで対応出来ている。	排泄が自立している方もおられる。個々に合わせたトイレ誘導を行い、パッド使用などの検討も続けている。羞恥心に配慮し、排泄中は扉の外で待機しており、ご本人から排便状況を教えてもらっている。排泄時のみ手すりを持って立てる方もおられ、トイレでの生活リハビリを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、繊維性のある食材を使用している献立に工夫をしている、飲水についても毎食のお茶の飲水量、一日の飲水量を確認しあっている、日々生活の中での室内での運動を個人の機能を考えて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人週2回を基本にしている。入浴を好まない方には時間や日を置いたり、声掛けする介護者を変えて促し、また他のご利用者さんより『気持ち良かった』と一言声掛けて誘ってもらったりしている。	週2回の入浴になっているが、失禁時などは適宜シャワー浴が行われている。入浴好きな方が多く、自分でできる部分は洗って頂き、湯船に浸かって頂いている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、好みに応じて入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の定期的、随時の交換、洗濯、日光消毒、まど衛生、清潔面への支援をし、昼間の適度の運動により夜間の安眠への支援をしている 又寝具類は自宅からの持込で馴染みの布団で気持ちよく安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人お1人の病名、服薬確認、把握に努めている処方時の薬、文献を確認目的、副作用、用法、量など複数の職員で確認出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をふまえた、個々の生活、機能に合わせた役割で楽しく気分転換が出来るよう働き掛けに努めている(お盆拭き・洗濯物たみ)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自宅が気になられる方がおられる方はお友達が迎えにこられてから自宅に外出される。	ホームからの見晴らしが素晴らしく、周辺の散歩と共に、近隣の方の庭に咲く藤の花等を見学させて頂いている。車いす対応の車を購入し、不老山公園での花見に出かけたり、市内のドライブを楽しまれている。病院受診後にダイエーや道の駅に寄られたり、施設長の運転で外食に行かれている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解があれば施設側に預けられる方がおられます洋服などは家族に相談をし購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1人の方は携帯電話を持っておられるので電話をされたりしますが他者はあまりされません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、玄関、テーブルに季節の野花を飾ったり、家具類は使い慣れた物を自宅から持って来ていただいたり、使いやすい高さにするなど心がけている。お風呂もゆっくりと入っていただくためにお1人ずつ入っていただいています。	利用者同士の関係性に配慮し、リビングの席替えをしている。和室のソファでは体操やレクを楽しまれ、好きなテレビを見られている。廊下には行事の写真や季節に合わせた手作りの作品が飾られている。皆さんと一緒に楽しく過ごせるように心がけており、日光浴を兼ねて、外のウッドデッキで過ごす時間も作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、食堂にテレビを設置好きな場所で好みの番組を観ておられる、自室にテレビがある方は自室で観られるが、又娯楽室へと来られる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも家族の写真、家族が作った小物、人形などを飾ったりして心地よく過ごしていただけるように工夫している。	体調に応じて特殊寝台をリースしている。大好きな洋服や家族の写真等を持ち込まれ、ラジカセで大好きな演歌を聞かれる方や、般若心経の経典を持参し、居室で唱える方もおられる。下着や衣類などの整理整頓は女性職員が一緒に行い、羞恥心への配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、衣類等の整理整頓が安全にわかりやすくしていただく為に見やすい高さにしたり、各居室トイレには名札を付け、理解が困難な方にも良く説明、誘導している。		